

議 事 要 旨

議 事 要 旨	
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 診療連携部会
日 時	令和4年2月28日～3月7日 メール会議
場 所	メール会議
送 信 者	西村会長、金山部会長、滝沢委員（徳島大学病院）、中本委員（県立中央病院）、石倉委員（徳島赤十字病院）、日野委員（徳島市民病院）、漆川委員（徳島県鳴門病院）住友委員（県立三好病院）、影治委員（徳島県立海部病院）、正宗委員（阿南医療センター）林委員（吉野川医療センター）、藤原委員（阿波病院）、鎌村委員（徳島県保健福祉部）、森委員（徳島県医師会）寺嶋委員（緩和ケア部会長）、水口委員（徳島県薬剤師会）、森根委員（肝がん部会）、岡本委員（胃がん部会）、岡久委員（大腸がん部会）、宮本委員（患者会）、大塚委員（徳島県歯科医師会）、位頭委員（徳島県介護支援専門員協会）、併任：住友委員（肺がん部会）、日野委員（乳がん部会）、西村委員（子宮がん部会）
承 諾 者	西村会長、金山部会長、滝沢委員（徳島大学病院）、中本委員（県立中央病院）、石倉委員（徳島赤十字病院）、日野委員（徳島市民病院）、漆川委員（徳島県鳴門病院）影治委員（徳島県立海部病院）、正宗委員（阿南医療センター）、藤原委員（阿波病院）、森委員（徳島県医師会）、寺嶋委員（緩和ケア部会長）、水口委員（徳島県薬剤師会）、森根委員（肝がん部会）、岡本委員（胃がん部会）、岡久委員（大腸がん部会）、宮本委員（患者会）、位頭委員（徳島県介護支援専門員協会）、大塚委員（徳島県歯科医師会）
<p>金山診療連携部会長の指示のもと、徳島県がん診療連携協議会診療連携部会がコロナウイルス感染予防のためメール会議での開催となった。</p> <p>令和4年2月28日(月)に委員へメール送信を行った。(意見・要望等の期限は3月7日(月)まで)内容について、23名中19名から承認頂いた。</p> <p>【議題1】 各がんの診療連携の状況について(添付資料①)</p> <p>1. 徳島県生活習慣病管理指導協議会の各がん部会より報告があった。</p> <p>1)胃がん部会：岡本委員から、胃がん部会は令和4年1月19日に開催された。議案として①令和2年度市町村胃がん検診実績、②令和2年度精度管理調査結果、③専門医療機関及び標準医療機関、④徳島県胃がん検診実施要領の改正について行った。上記の議事3に関連して各医療機関の連携を推進する旨の発言があったとの報告があった。</p> <p>2)大腸がん部会：岡久委員から、大腸がん部会は令和4年1月31日に開催された。議案として①令和2年度市町村大腸がん検診実績、②令和2年度精度管理調査結果、③専門医療機関及び標準医療機関については、令和3年度医療施設機能調査結果報告から専門診療と標準的診療の機能を確認し、昨年度と同医療機関を認定とした。④大腸がん治療の記録ノートの活用については、その活用状況に医療機関ごとに差がみられる状況にあるが、地域連携の一つの柱となりえるものであり、少しずつではあるが定着している施設もある。より活用を進めるために、担当医の診療時間を増やさない</p>	

ためのナースや医療秘書などの協力体制の構築が必要であるとの意見があった。⑤大腸がん検診受診率向上に向けての取り組みとして、大腸がん検診受診率は平成 28 年度の 46 位 (33.5%) から令和元年の 42 位 (37.5%) と 4%受診率が向上した。テクとく (徳島県版健康ポイントアプリ) やデジタルサイネージ広告による受診啓発など、コロナの状況に応じた受診率向上の取り組みを今後も継続していくことが確認されたとの報告があった。

3) 肝がん部会：森根委員から、肝がん部会は令和 4 年 1 月 21 日に開催された。議題として①徳島県における肝がんの状況について、徳島県がん・疾病対策担当者より「全国がん登録罹患数・率」について報告があった。②がん検診受診率向上のための取組について、県並びに市町村におけるがん健診受診率向上の取組について報告があった。新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるイベントの自粛や「受診控え」などの影響もあるが、徳島駅コンコースでのデジタルサイネージ広告や SNS をはじめとする各種メディアを介した新たな受診啓発への取り組みが紹介された。③専門医療機関及び標準医療機関について令和 3 年度「医療施設機能調査」の結果、調査票「Q4 治療方法の実施状況」において令和元年度並びに令和 2 年度は治療実績がなかった。④医療機関について標準診療医療機関の指定見直しについて、委員による検討の結果、「水の都記念病院」「大久保病院」は標準医療機関から変更なし、「浦田病院」「那賀町立上那賀病院」は標準医療機関から外れることとなったとの報告があった。

4) 肺がん部会：住友委員 (代理：近藤肺がん部会長) から、肺がん部会は令和 4 年 1 月 24 日に開催された。議案として①令和 2 年度市町村肺がん検診実績について了承を得た。②令和 2 年度精度管理調査結果について了承を得た。③専門医療機関及び標準医療機関について、阿波病院が 2 年間肺がん患者の診療がなかった為、標準医療機関から外れることとなったとの報告があった。

5) 乳がん部会：日野委員から、乳がん部会は令和 4 年 1 月 17 日開催された。議題として①令和 2 年度市町村乳がん検診実績について、令和元年の徳島県乳がん検診受診率は 44.5% (全国 35 位) となりコロナ禍で検診受診率は若干低下している。年齢別では乳がん罹患数が多い 45 歳から 59 歳で受診率が低い。市町村別では上勝町で受診率が高く (18%)、鳴門市、小松島市、美馬市、つるぎ町は受診率が低い。精検受診率は徳島市、上板町、那賀町、吉野川市で不良である。受診率向上のための取り組みの報告があった。精度管理はできている (がん発見率、陽性的中率も良好である)。②令和 2 年度精度管理調査結果について、市町村別では概ね良好で B 判定、施設別においても概ね良好であった。③専門医療機関及び標準医療機関について、地域性も考慮して専門・標準医療機関を決定した。④その他、徳島県乳がん検診実施要領の改正について、第 33 回がん検診のあり方に関する検討会で「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」が議論され、改定された。

主な改定点は以下の項目

1. 乳がんに関する正しい知識及び乳房を意識する生活習慣 (ブレスト・アウェアネス) に改正
2. 受診者に対する利益と不利益の説明に関する項目が追加
3. 診療放射線技師法 (昭和 26 年法律第 226 号) の改正が令和 3 年 10 月 1 日付で施行されることとなり、病院又は診療所以外の場所で、多数の者の健康診断を一時に行う場合においては、医師の立会いなく診療放射線技師が乳房エックス線検査を実施することが可能となる。
4. 乳房エックス線写真の読影に関して「過去に撮影した乳房エックス線写真と比較読影することが望ましい」が追記されたとの報告があった。

6)子宮がん部会：西村委員から、子宮がん部会は令和3年12月25日に開催された。議題として、①令和2年度市町村子宮頸がん検診実績は徳島県全体で12.4%（令和元年度=12.5%）、子宮頸がん検診受診者数：20,556名（令和元年度20,754名）、子宮頸がん要精検率：2.6%（令和1年度2.4%）、精検受診率：80.7%（令和元年度79.8%）と平成28年度より大幅に改善した。②令和2年精度管理調査結果について、子宮頸がん検診を行っている医療機関と管理する市町村から子宮頸がん検診の精度管理報告があり、全ての医療機関、市町村においてAもしくはB判定でC以下の判定はなかった。③子宮がん治療に対する専門医療機関及び標準医療機関について、専門医療機関：徳島大学病院、徳島県立中央病院、徳島市民病院、徳島県鳴門病院、徳島赤十字病院、標準医療機関：徳島県立三好病院、阿南医療センター、つるぎ町立半田病院である。④子宮頸がんワクチンに関しては、積極的接種勧奨（個別勧奨）が再開されるとの厚生労働省健康保険局長通知があった。別途協議会を新たに設置した上で協議が行われることとなり、徳島県ヒトパピローマウイルスワクチン接種推進協議会が開催された。

徳島県ヒトパピローマウイルスワクチン接種推進協議会は、令和3年12月27日（月）徳島グランヴィリオホテルにて開催。HPVワクチンの積極的接種勧奨（個別勧奨）が再開されました。令和3年11月26日 厚生労働省健康局長通知、これを受けて徳島県での接種の勧奨方法やキャッチアップ接種について議論されました

①定期接種について

期間：令和4年4月より再開に向けて準備をすすめる。（徳島県内24市町村）

対象：13歳から16歳の女子

②積極的接種勧奨がなされていなかった期間に接種対象となっていたが、接種していない市民へのキャッチアップ接種について

対象：平成9年4月2日から平成17年4月1日生

「徳島県に住民票がある者」及び「現在、実際に徳島県内に居住している者」

ワクチンの種類：2価ワクチン（サーバリックス）、4価ワクチン（ガーダシル）

接種回数：3回/1人を補助する

接種者に対して接種前と接種後にアンケートを実施する。

1回の接種について医療機関に対して20,000円が補助されることとなった。

③HPVワクチン接種に係る周知啓発と相談体制

子宮頸癌とHPVワクチンに関する動画を作成することとなった。

作成したものはYouTubeやTikTok上に公開し、接種対象者となる主に若年女性への子宮頸癌予防の啓発を行うこととなった。

【議題2】各拠点病院における令和2年度、地域連携クリティカルパスの活用状況、手帳の運用状況について各拠点病院から、別紙資料1に基づき連携保険医療機関届出施設数とがん治療連携策定料加算件数について（添付資料②）

1) 徳島大学病院：がん治療連携計画策定料加算件数は、毎月算定されており、肺がんがもっとも多く算定できている。がん患者指導管理料イ・ロに関しては継続して算定を行っている。外来患者在宅連携指導料も毎月算定している。手帳の運用については外来・入院時に配布を行っている。乳がん・婦人科がん・前立腺がんはほぼ毎月、患者さんに配布を行っている。

2) 徳島県立中央病院：がん治療連携計画策定料加算件数は胃がん、大腸がん、肺がん、前立腺がんについては毎月算定ができている。がん患者指導管理料についても、毎月算定ができている。治療の記録ノートについても、大腸がん・肺がん・胃がんなど外科で術後の患者さんへ退院時に配布を行

っている。

- 3) 徳島赤十字病院：がん治療連携計画策定料加算件数は、大腸がん・胃がん・肺がんの算定を行っている。がん患者指導管理料も毎月算定を行っている。連携保険医療機関数は、胃がん・大腸がん・肺がんで連携ができてきている。治療の記録ノートの配布はできていない。
- 4) 徳島市民病院：がん治療連携計画策定料加算はできていない。がん患者指導管理料、外来がん患者在宅連携指導料は算定を行っている。がん治療の記録のノートの配布はできていない。連携保険医療機関数は、乳がん・肺がん・肝がん・大腸がん・胃がんはできている。
- 5) 徳島県立三好病院：がん治療連携計画策定料は算定できていない。がん患者指導管理料についてはイ・ロの加算は算定できている。がん治療の記録ノートの配布はできていない。連携保険医療機関数は、肺がん・大腸がん・胃がん・乳がん・前立腺がんはできている。

【議題3】 徳島県民がんフォーラム開催報告について(添付資料③)

「徳島県民がんフォーラム2021実施報告者」についての報告

- 1) 令和3年10月11日(月)に徳島大学病院で徳島県がん診療連携協議会診療連携部会、情報提供・相談支援部会、緩和ケア部会が主催、徳島大学病院がん診療連携センターと徳島新聞社が共催で開催を行った。新型コロナウイルスの影響で無観客開催となり当日の様子を徳島県内のケーブルテレビで放映、また令和3年11月14日(日)徳島新聞朝刊に掲載を行った。
- 2) 内容は「がんとうまく付き合う患者術・生活術」で「早めに一度『人生会議を』しましょう」をはじめ、最新のがん手術療法、がん薬物療法と体調管理、がん相談支援センターなどについて講演を行った。
- 3) 最後にパネルディスカッションを行い、患者さんからいただいた質問に回答した。
- 4) 継続して毎年市民公開講座を行う予定である。

【議題4】 その他

- 1) 治療の記録ノート手帳の作成について

今年度は、手帳カバー・ソール等の作成を行った。

(ビニールカバー500枚、ソフトケース1500部、シール5000枚)

- 2) 患者会:宮本委員から下記のメールがありました。

令和3年度は新型コロナ感染症が徳島県下で一年を通じて蔓延をして、各拠点病院では大変ご苦労をされてがん患者への対応をして頂き本当にありがとうございました。各患者会も感染症対策をしながら活動を致しましたが、すべての人がオンライン会議をうまく使う事は出来ませんので、本来ならできる事が思うようにいかなかったところがありました。この新型コロナ感染症の影響でがん検診の受診を控えたり、体調の変化に気付いても病院に掛からなかった患者さんが、コロナが終息に向かうにしたがって来院し、その時にはがんのステージが上がっている患者さんが増加している事が懸念されます。国、県が事前に何か対策を取る事ができれば良いと思います。メール会議の資料を見せましたが、がん治療の記録ノートの配布はなかなか進まないところである事が伺えます。配布する事に何か難しい所があると推察しますが、患者への啓発、コミュニケーションの一助に役立てて頂き活用を進めて頂ければと思います。